

往復書簡

今回は、株式会社麦わら農場の青木理紗社長と当機構理事長高木勇樹の往復書簡 後編です。

拜啓 高木勇樹様

ご返信ありがとうございます。高木さんのお手紙を拝見し、時節のご挨拶のバリエーションが豊富で素敵だと常々感じております。私はあまりそういったご挨拶が得意でなく恐縮なのですが、梅雨に入り湿度が高く気温も高くなってきておりまして食材の管理に気を付けなければと思っております。

行動力や姿勢に評価をいただいて本当にうれしく思います。私としては農業に関わっている理由は自分自身が一個の人間として取るに足らない存在だとしても、生まれたからには何か真剣に取り組みたいというのが原点でして、苦澁を耐え抜いているとか、また何かを捨てて飛び込んだという意識はあまりありません。ただ他の方々から見ると同情を受けることが多く(笑)お恥ずかしい限りでございます。

さて、近況についてですが、一番の問題は人の確保にあります。今まで何人が雇用をして参りましたが、上手く定着できず、現在、正社員は私のみで他はアルバイトを活用しています。前回も申し上げましたが、やはり販路を確保することが何よりも重要なことと現在は考えておまして、そのためケータリング・弁当の確立を一番の優先事項にしており、生産のほうは他の農家にほとんど依存している状況です。

今までの雇用について大いに反省点が多いのですが、問題は大きく三点かと思えます。一番の問題は自分自身に余裕がないこと、二点目は雇用する人材の選定を間違えたこと、三点目は地元とのつながりが薄いことにあるかと考えています。

また最近ビジネスを成功させてきた方々に話しを伺う機会があったのですが、どの方も給与が高いことが良い人材を雇用するには重要である、とお話されていきました。農業の中に良い人材を確保できないことは業界が繁栄しないことにもつながると思えますが、やはり利益をきちんと上げることというのがとても重要なのだな、と痛感しております。今年に入りある程度の利益を確保し、設備投資をして参りましたので人との問題に改めて向き合う時期が来たなど思っております。

近況の課題としてもう一点はお金の確保です。規模をある程度拡大するにはキャッシュフローの問題からやはり資金調達をしていかなければいけないと感じています。そういった中で出資というようなお話もいくつか頂戴していたのですが、いずれも条件面から折り合いがつかず実現はしていません。こういった過程を経て、改めて資金面から見た際に農業は国の保護のもと、有利な条件で借入ができるということは大きな特徴だと思っております。

人と資金確保を今年度の前半の目標にしています。その後はケータリング・弁当の販売先が東京がメインであることから、東京に厨房を持つこと、そして安定的な法人の販路を見つけていくことが目標だと思っております。毎日弁当・ケータリングの売上が立つような売り方がどのようなものになるのかはいくつかトライアルしている最中ですが、基本としてももう少し商品、並びにそれに伴う業務の定型化が必要だと痛感しております。

少し長くなってしまいましたが一通りやってみて改めて地に着いた課題が見えてきたかな、と思っております。一つ一つ課題に取り組むことで自分のやりたいことを形にしていきたいです。

つらい時に、前に高木さんが「若いうちの自分への厳しさを全然大げない」と仰っていたことをよく思い出します。高木さんのように自分に厳しく他人に寛容な人間になれるよう努力したいと思います。

また今後もしいろいろとご報告させていただけると幸いです。

敬具

平成二十七年六月吉日

青木 理紗 (あおき りさ)

一九八〇年 東京都生まれ
二〇〇三年 東京大学文学部を卒業後、アクセシブルな株式会社に入社。経営コンサルタントとして活動。
二〇一〇年 農業生産法人株式会社麦わら農場を設立し、代表取締役として農業経営を開始。



拝復 青木 理紗 様

六月八日に関東地方が梅雨入りして以降、ざーっと降ったり、かつと真夏日のうだるような暑さに閉口し、しとしと降る梅雨らしい雨にほっとしています。この頃一番似合う花はやはり紫陽花（あじさい）ではないでしょうか。

青木さんにとつては、それより何より食材の管理が大事ないうことは、我が家でも火入れに神経を使っていることからよく分かります。

今回のお手紙を読んでまた感心しているのですが、青木さんの自分をみる眼が卒直で客観的だということですが、

「近況の課題」ということで、人の確保とお金の確保を二大課題として掲げておられます。

起業されたのが五年前。一通りやってみて改めて地に足がついた課題が見えてきたかなと書いておられますが、わずか五年で、無から有を、そして更にひとつのかたち（持続的農業経営）へ挑戦されているのは実にお見事としが言いようがありません。生まれたからには何かに真剣に取り組みたいという原点がなさしめているのでしょうか。

私はこれまでの人生から自分のモノサシの感性を豊かにすることが、棺桶に足をつ突つ込むとき自分の人生を振り返り大往生の境地に至る要諦と確信しています。私のここであるところの感性とは、想像力、創造力、先見性、直感力、判断力、責任感の総合力です。

青木さん、二回のお手紙のやりとりですが、あなたは磨けば豊かになる感性のモノサシを既にお持ちであることを私は確信致しました。

「若いうちの自分への厳しさ」そして「慎重にしてかつ大胆」これが鍵です。

加齢のせいでもうしても説教調になってしまいがちなことを、これに懲りずにまたお話を聞かせてください。

敬具

平成二十七年六月吉日

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ

一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、

大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、

大臣官房長、食糧庁長官など歴任。

農林水産事務次官、二〇〇一年退官

一九九八年 農林中金総合研究所理事長

二〇〇二年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇三年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

二〇〇七年 現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・

農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

